

ii. 小児科学会会員および保護者への アンケート調査報告

厚生労働省平成26年度児童福祉問題調査研究事業
研究事業総括報告書

思春期及び成人期、更年期以降の母性保健に関する保健指導のあり方についての調査・研究
(妊娠期・分娩期・産褥期・授乳期以降を除く)

分担研究課題： 小児科学会会員および保護者へのアンケート調査

分担研究者 永光信一郎 (久留米大学小児科)

秋山千枝子 (あきやま子どもクリニック)

廣瀬 伸一 (福岡大学小児科)

日本小児科学会子どもの生活環境改善委員会

(阿部啓次郎、安柄文、井上信明、加治正行、齋藤伸治、早乙女智子、定本ゆきこ、佐藤武幸、田中英高、
三牧正和、村田祐二、山中龍宏、平岩幹男、伊藤悦朗)

研究事業総括 五十嵐 隆

公益社団法人 日本小児科学会 会長

研究要旨

厚生労働省児童福祉問題調査研究事業の一環として、「思春期及び成人期、更年期以降の母性保健に関する保健指導のあり方についての調査・研究」を実施した。現代の思春期の児童・生徒に対して、適切な母性保健に関わる事項(感染、妊娠、育児、心身の健康)を指導していくうえで、時代の状況やニーズを十分理解したうえで実施していくことが重要である。小児科学会会員および保護者にアンケート調査を実施し、思春期医療の現状と展望を考察し、本邦での思春期の健康問題への政策的介入、および健康問題の向上への方策の提言を検討した。[方法]日本小児科学会会員 20,854 名に思春期医療への関わりに関するアンケートを送付した。同時に 2 部の保護者用アンケートを同封し、医療関係者以外の中・高校生の子どもをもつ保護者に手渡して頂くようお願いした。医師用の設問内容は、①思春期の子どもたち(概ね二次性徴発現から 20 歳まで)の診療或いはその保護者のからの相談機会の有無、②どのような疾患、問題行動について日常診療で相談を受けるか、③対応可能な疾患および行動、④思春期の健康課題としての問題、⑤思春期の定義と小児科診療をおこなう患者の年齢制限についてであった。一方、保護者用の設問内容は、①二次性徴、食生活、やせ、異性との付き合い方、性交渉に関して子どもからの相談の有無、②性、受孕調節に関する子どもたちの知識、③思春期の相談先として望ましい所、④思春期の健康課題としての問題、⑤思春期の定義と何歳まで小児科に連れて行くかなどたずねた。本研究課題は小児科学会倫理委員会の承認を得ている。医師用アンケート数 5,218 (回収率 25%) で、内訳は、男性 61%、女性 38%で、回答者の平均年齢は 50 歳であった。①診療相談経験のある医師の率は 83%で、②相談診療経験有無の率は、不登校(80%)、肥満(58%)、発達障害(53%)、月経異常(48%)、虐待(9%)、性感染、避妊、中絶など性関連(4~6%)であった。③相談診療可能な疾患は、肥満(48%)、発達障害(44%)、不登校(41%)、虐待(16%)、性関連(5-12%)であった。④思春期の健康課題として、不登校、発達障害の次にスマホネット依存(35%)が認められた。⑤思春期を 18 歳、20 歳までと考える医師が各々 56%、24%であった。また 18 歳、20 歳まで小児科をかかりつけと考える医師が各々 31%、14%であった。保護者用アンケートでは、アンケート数 3,602 名で、母親記載が 92%であった。回答者の平均年齢は 44 歳で、母子家庭は 4.8%であった。①二次性徴について子どもと相談したことがある保護者は 70%で、出産、育児については、30%前後であった。アルコールやたばこ、薬物のリスクについても 70%の保護者が子どもとの相談経験をもっていた。一方で性感染、

性交渉、避妊などの性関連の話題は 8-15%であった。②受胎調節の知識について子どもたちが正しく認識していると答えた保護者は 22%。③思春期の相談先として家族、学校、友人以外に 30%の保護者が医療機関を希望した。④思春期の健康課題として、不登校(26%)よりいじめ(53%)、発達障害(6%)よりうつ病(35%)が重要視されており、スマホネット依存 (53%)も重要視されていた。⑤思春期を 18 歳、20 歳までと考える保護者が各々 63%、13%であった。また 18 歳、20 歳まで小児科をかかりつけと考える保護者は 23%、6%であった。2005 年に、厚労省、小児科学会、関連学会が、子どもの心の診療医育成のボトムアップを提言して 10 年になる。発達障害、不登校児童への支援体制は十分とは言えないが、社会資源と診療に携わる医師は増加した。性関連や虐待に関しては、相談比率よりも対応可能率の方が高く、小児科医のさらなる関与が期待される。とくに性感染症は感染の治療のみではなく、生活環境面の指導、メンタルケアが必要であり、泌尿器科医、婦人科医とともに小児科の関与が必要とされる。思春期の子どもたちの取り巻く環境は、少子化問題、格差の拡大による貧困問題、情報媒体の普及などから、心身の健康が危険にさらされることがある。我が国では思春期医療の担い手がはつきりせず、学校健診や disease oriented care により医療システムでは思春期の子どもたちのニードを十分拾えていない可能性がある。小児科医による思春期の子どもたちの well child health care による事故や危険行動の防止、疾病予防などが将来必要と思われる。

A. 研究目的

思春期の母性保健の方針として、男女ともに、将来の生活設計としての意義を持つ結婚、妊娠、分娩、育児に関する認識を積み重ね、母性機能の発達に障害を及ぼす疾病又は原因を防止し、保健及び福祉に関する教育、相談、指導の機会をもち、知識を普及することとある（母性、乳幼児に対する健康診査及び保健指導の実施について：平成 8 年 11 月 20 日児発第 934 号）。母性保健の向上のため、母性の尊重と保護が必要とされ、妊娠の時点からではなく、思春期からの保健にも留意し、母親としての機能を十分に発揮することができるように配慮が必要と総則にも記してある。しかしながら我が国では、思春期における保健および健康診査を担う機関が乏しく、さらに思春期を取り巻く生活環境も、少子化問題、経済格差の拡大による貧困問題、情報媒体機器への依存による心身の健康問題など、大きく変動し、母性保健の向上に影響を及ぼしているものと思われる。厚生省児童家庭局から上記実地要項が通知されすでに 20 年近くになっており、思春期の現況を反映した適正な母性保健のあり方を検討していくことは重要である。

一方、平成 13 年から開始した「健やか親子 21」は、母子の健康水準を向上させるための国民健康運動計画で、次世代を担う子ども達を健やかに育てる基盤となる取り組みである。14 年間の第一次計画では、課題 1：思春期の保健対策の強化と健康教育の

推進、課題 2：妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援、課題 3：小児保健医療水準を維持・向上させるための環境整備、課題 4：子どもの心の安らかな発達の促進と育児不安の軽減が掲げられた。（健やか親子 21 ホームページ；

<http://rhino.med.yamanashi.ac.jp/sukoyaka/saiyuuhyouka.html>）思春期の生活環境に関わる要項およびこの 14 年間の取り組みとしての結果は、十代の喫煙率、十代の飲酒率、十代の性感染症罹患率、思春期やせ症の発生率、児童生徒における肥満児の割合などすべて低下している。また薬物乱用の有害性について正確に知っている小中高生の割合、性行動による性感染症等の身体的影響等についてのしきのある高校生の割合なども改善している。一方で、十代の自殺率は悪くなっており、また不健康なやせの率も増加している。思春期外来の数、学校保健委員会を開催している学校の割合、思春期保健対策に取り組んでいる地方公共団体の割合、食育の取組を推進している地方公共団体の割合などは変わっていない現況がある。

母性保健の向上のためには、思春期において少なくとも年一回の健康診査と保健指導が保健指導要領で示されているが、現行は学校健診を中心とした集団での健康診査になっており、個別事項に十分対応できない状況にあることが懸念される。医療機関における思春期生徒の診療も、疾患の発見に重きがお

かれおり、健康者を対象とした喫煙、飲酒、薬物などの危険行動の回避、適切な受胎調節、性感染症予防の指導、自殺予防などは十分な対策がとられているとはいえない。

現代の思春期の児童・生徒に対して、適切な母性保健に関わる事項（感染、妊娠、育児、心身の健康）を指導していくうえで、時代の状況やニーズを十分理解したうえで実施していくことが重要である。本研究課題の目的は、思春期の診療の携わる小児科医に、思春期医療の現状と展望についてアンケート調査をおこない、本邦での思春期の健康問題への政策的介入、および健康問題の向上への方策の提言を検討することである。また、同時に思春期児童生徒をもつ保護者にも思春期の健康、相談事項に関するアンケート調査を実施した。

B. 研究方法

1) アンケートの内容

医師および保護者に対するアンケート内容については、日本小児科学会子どもの生活環境改善委員会で検討した。大項目について下記に示す。実際に使用したアンケートを資料として添付する。

（詳細な設問については、添付資料または、研究結果の項を参照）

医師用アンケート

- I. 回答者に関する情報
- II. 思春期の子どもたちの診療について
- III. 思春期の保健指導と課題について
- IV. 諸機関との連携について
- V. 思春期の性について
- VI. 学校保健について
- VII. その他

保護者アンケート

- ・ お子様と回答者の年齢等
- ・ お子様との日頃の関わりについて
- ・ 相談経験や相談相手について
- ・ お子様の知識について
- ・ 学校以外の活動について
- ・ その他

2) 実施対象者

医師用アンケート：日本小児科学会会員 20,854 名
保護者用アンケート：日本小児科学会会員に医師用アンケート送付時に、2部の保護者用アンケートを同封し、中高生の子どもをもつ、医療関係者以外の保護者に手渡して頂くようお願いした。

3) 実施期間

平成 26 年 12 月末から平成 27 年 1 月 20 日

4) 実施方法

郵送で医師用と保護者用アンケートを同封して、返信用封筒とともに、日本小児科学会会員全員に送った。アンケートの回答は無記名で、返信者が特定されないようにした。保護者用アンケートについては、アンケート調査の依頼書を作成し、同意をしていただける保護者に回答していただくようにした。小児科学会会員より手渡しで保護者に渡し、返信は医師用アンケートとは別の返信封筒を用意し、保護者の意思で投函できるように配慮した。

5) 倫理的事項

調査の主旨と内容を説明する文書を添付し、回答を返信することを持って調査への協力に同意したものと見なした。説明文書において、調査に回答したかどうか個別に照会されることがないこと、また、調査に回答しないことによる不利益が一切ないことを保証し、無記名で実施した。本研究課題については日本小児科学会倫理委員会の承認を得た。

C. 研究成果

1) 回収率

医師用アンケートの回収率は 25% (5218 / 20,854)であった。保護者用は実際に何件配布されたか不明で 3,602 件、郵送されてきた。

2) アンケート結果（単純集計）

アンケートの設問に沿った単純集計を下記の表内に示す。

3) アンケート結果（クロス集計）

回答者の所属、年齢などで区切ったクロス解析については考察内にマーク(*)で結果のみ示す。

思春期の健康に関するアンケート

医師用

I. ご回答者に関する情報

性別:01 男性 02 女性

年齢: _____ 歳

勤務形態:01 常勤 02 非常勤

勤務先:01 診療所 02 大学病院 03 市中病院 04 その他

性別

	回答数	%
全体	5173	100.0
1 男性	3138	60.7
2 女性	1999	38.6
無回答	36	0.7

年齢

平均値	50.41
標準偏差	13.03

勤務形態

	回答数	%
全体	5173	100.0
1 常勤	4351	84.1
2 非常勤	654	12.6
無回答	168	3.2

勤務先

	回答数	%
全体	5173	100.0
1 診療所	1883	36.4
2 大学病院	786	15.2
3 市中病院	1970	38.1
4 その他	428	8.3
無回答	106	2.0

II. 思春期の子どもたちの診療について

問1 日本小児科学会は2006年に「小児科医は子どもたちが成人になるまで見守ります」のスローガンの下、中学校卒業後も小児科医が子どもたちのかかりつけ医となることを宣言しましたが、このことを知っていましたか。

01 知っていた 02 知らなかった

	回答数	%
全体	5173	100.0
1 知っていた	3122	60.4
2 知らなかった	2024	39.1
無回答	27	0.5

問2 思春期(概ね2次性徴発現から20歳まで、以下同様)の子どもたちの診療或いはその保護者のからの相談を受ける機会がありますか。

01 あり → 問3へお進みください 02 なし → III. 問6へお進みください

	回答数	%
全体	5173	100.0
1 あり	4288	82.9
2 なし	859	16.6
無回答	26	0.5

問3 思春期の子どもたち或いはその保護者の方は、どのような機会に受診されますか。[複数選択可]

01 予防接種 02 急性疾患 03 心理的な相談
04 慢性疾患 05 その他

	回答数	%
全体	4288	100.0
1 予防接種	1871	43.6
2 急性疾患	2611	60.9
3 心理的な相談	2880	67.2
4 慢性疾患	2931	68.4
5 その他	244	5.7
無回答	3	0.1

問4 思春期の子どもたちの診療或いはその保護者からの相談について、過去1年間であてはまる内容をそれぞれ選択してください。(複数選択可)

4-1 母性機能の発達に関係する疾病、性の悩み等

01 月経異常 02 性感染症 03 妊娠・中絶
04 性被害・性的虐待 05 性同一性障害 06 なし
07 その他()

	回答数	%
全体	4288	100.0
1 月経異常	2065	48.2
2 性感染症	178	4.2
3 妊娠・中絶	282	6.6
4 性被害・性的虐待	216	5.0
5 性同一性障害	134	3.1
6 なし	1457	34.0
7 その他	84	2.0
無回答	527	12.3

4-2 心身の発達

01 摂食障害 02 睡眠障害 03 発達障害
04 うつ病・双極性障害 05 リストカット 06 なし
07 その他()

	回答数	%
全体	4288	100.0
1 摂食障害	1820	42.4
2 睡眠障害	1848	43.1
3 発達障害	2315	54.0
4 うつ病・双極性障害	774	18.1
5 リストカット	566	13.2
6 なし	569	13.3
7 その他	244	5.7
無回答	218	5.1

4-3 学校生活、生活環境等

01 不登校 02 いじめ 03 引きこもり 04 虐待
05 犯罪行為 06 なし 07 その他

	回答数	%
全体	4288	100.0
1 不登校	3459	80.7
2 いじめ	1499	35.0
3 引きこもり	1485	34.6
4 虐待	403	9.4
5 犯罪行為	290	6.8
6 なし	475	11.1
7 その他	125	2.9
無回答	169	3.9

4-4 生活習慣、栄養・食生活等

- 01 やせ 02 肥満 03 貧血 04 喫煙 05 飲酒
 06 薬物乱用 07 スマホ・ネット依存 08 なし
 09 その他()

	回答数	%
全体	4288	100.0
1 やせ	1567	36.5
2 肥満	2491	58.1
3 貧血	1469	34.3
4 喫煙	249	5.8
5 飲酒	87	2.0
6 薬物乱用	91	2.1
7 スマホ・ネット依存	811	18.9
8 なし	560	13.1
9 その他	105	2.4
無回答	325	7.6

問5 思春期の子どものための診療或いはその保護者からの相談について、近年増えてきている内容をそれぞれ1~2つ選択してください。

5-1 母性機能の発達に関係する疾病、性の悩み等

- 01 月経異常 02 性感染症 03 妊娠・中絶
 04 性被害・性的虐待 05 性同一性障害 06 なし
 07 その他()

	回答数	%
全体	4288	100.0
1 月経異常	802	18.7
2 性感染症	111	2.6
3 妊娠・中絶	177	4.1
4 性被害・性的虐待	118	2.8
5 性同一性障害	74	1.7
6 なし	2278	53.1
7 その他	67	1.6
無回答	847	19.8

5-2 心身の発達

- 01 摂食障害 02 睡眠障害 03 発達障害 04 うつ病・双極性障害
 05 リストカット 06 なし
 07 その他()

	回答数	%
全体	4288	100.0
1 摂食障害	1047	24.4
2 睡眠障害	1111	25.9
3 発達障害	1855	43.3
4 うつ病・双極性障害	364	8.5
5 リストカット	125	2.9
6 なし	876	20.4
7 その他	80	1.9
無回答	392	9.1

5-3 学校生活、生活環境等

- 01 不登校 02 いじめ 03 引きこもり 04 虐待
 05 犯罪行為 06 なし 07 その他()

	回答数	%
全体	4288	100.0
1 不登校	2871	67.0
2 いじめ	908	21.2
3 引きこもり	997	23.3
4 虐待	168	3.9
5 犯罪行為	52	1.2
6 なし	682	15.9
7 その他	102	2.4
無回答	360	8.4

5-4 生活習慣、栄養・食生活等

- 01 やせ 02 肥満 03 貧血 04 喫煙 05 飲酒
 06 薬物乱用 07 スマホ・ネット依存 08 なし

09 その他()

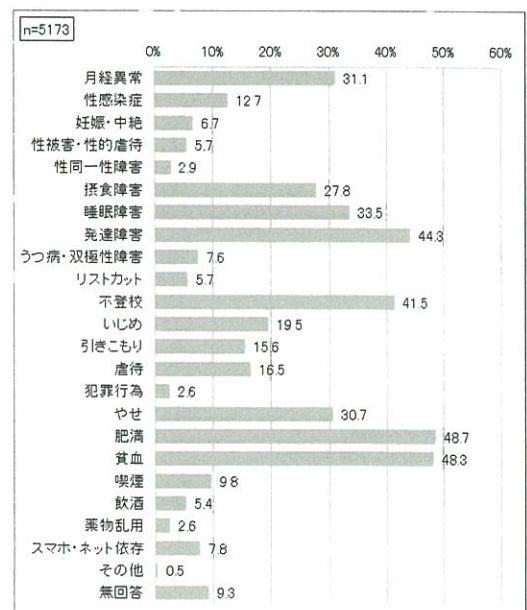
	回答数	%
全体	4288	100.0
1 やせ	874	20.4
2 肥満	1686	39.3
3 貧血	431	10.1
4 喫煙	77	1.8
5 飲酒	32	0.7
6 薬物乱用	37	0.9
7 スマホ・ネット依存	866	20.2
8 なし	976	22.8
9 その他	57	1.3
無回答	616	14.4

Ⅲ. 思春期の保健指導と課題について

問6 先生が対応可能(初期対応を含む)な疾患等をお選びください。(複数選択可)

- 01 月経異常 02 性感染症 03 妊娠・中絶 04 性被害・性的虐待
 05 性同一性障害 06 摂食障害
 07 睡眠障害 08 発達障害 09 うつ病・双極性障害
 10 リストカット 11 不登校 12 いじめ 13 引きこもり
 14 虐待 15 犯罪行為 16 やせ 17 肥満 18 貧血
 19 喫煙 20 飲酒 21 薬物乱用 22 スマホ・ネット依存
 23 その他()

	回答数	%
全体	5173	100.0
1 月経異常	1609	31.1
2 性感染症	656	12.7
3 妊娠・中絶	345	6.7
4 性被害・性的虐待	293	5.7
5 性同一性障害	149	2.9
6 摂食障害	1439	27.8
7 睡眠障害	1735	33.5
8 発達障害	2292	44.3
9 うつ病・双極性障害	391	7.6
10 リストカット	296	5.7
11 不登校	2148	41.5
12 いじめ	1011	19.5
13 引きこもり	807	15.6
14 虐待	856	16.5
15 犯罪行為	136	2.6
16 やせ	1586	30.7
17 肥満	2518	48.7
18 貧血	2498	48.3
19 喫煙	505	9.8
20 飲酒	277	5.4
21 薬物乱用	134	2.6
22 スマホ・ネット依存	405	7.8
23 その他	28	0.5
無回答	482	9.3



問7 先生が思春期の子どもたちを対象とした診療を行う上で、必要な知識はどの分野だとお考えですか。優先すべき順を番号でお答えください。最優先すべきものから順に (→ → → → →)

- ① 身体疾患 ② 心の問題 ③ 性の問題
④ 認知、発達の問題 ⑤ 喫煙、飲酒などの社会医学 ⑥ その他 ()

1位

	回答数	%
全体	5173	100.0
1 身体疾患	3301	63.8
2 心の問題	1250	24.2
3 性の問題	89	1.7
4 認知、発達の問題	309	6.0
5 喫煙、飲酒などの社会医学	30	0.6
6 その他	44	0.9
無回答	150	2.9

2位

	回答数	%
全体	5173	100.0
1 身体疾患	501	9.7
2 心の問題	2301	44.5
3 性の問題	522	10.1
4 認知、発達の問題	1511	29.2
5 喫煙、飲酒などの社会医学	130	2.5
6 その他	18	0.3
無回答	190	3.7

3位

	回答数	%
全体	5173	100.0
1 身体疾患	481	9.3
2 心の問題	1172	22.7
3 性の問題	1250	24.2
4 認知、発達の問題	1630	31.5
5 喫煙、飲酒などの社会医学	348	6.7
6 その他	25	0.5
無回答	267	5.2

4位

	回答数	%
全体	5173	100.0
1 身体疾患	340	6.6
2 心の問題	203	3.9
3 性の問題	2275	44.0
4 認知、発達の問題	1011	19.5
5 喫煙、飲酒などの社会医学	910	17.6
6 その他	38	0.7
無回答	396	7.7

5位

	回答数	%
全体	5173	100.0
1 身体疾患	331	6.4
2 心の問題	45	0.9
3 性の問題	643	12.4
4 認知、発達の問題	401	7.8
5 喫煙、飲酒などの社会医学	3258	63.0
6 その他	33	0.6
無回答	462	8.9

6位

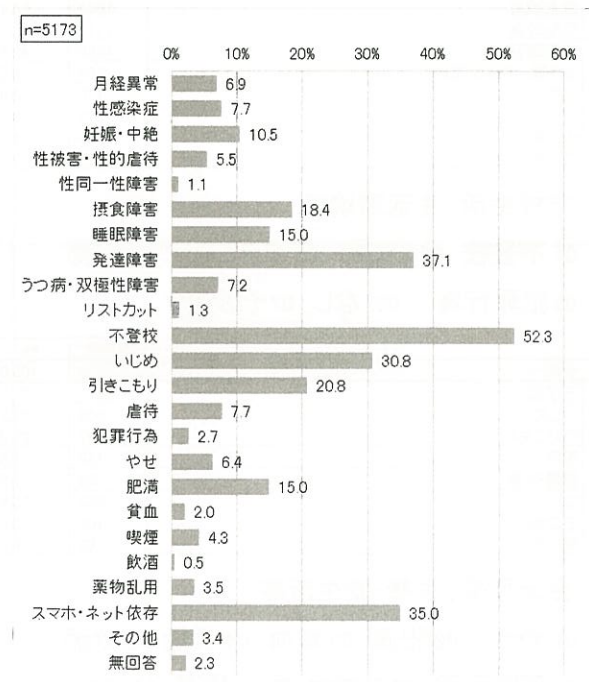
	回答数	%
全体	5173	100.0
1 身体疾患	20	0.4
2 心の問題	2	0.0
3 性の問題	25	0.5
4 認知、発達の問題	16	0.3
5 喫煙、飲酒などの社会医学	78	1.5
6 その他	2972	57.5
無回答	2060	39.8

問8 現在の思春期における子どもたちの健康問題の課題と思われるものは何ですか。

上位3つに ○をお付けください。

- 01 月経異常 02 性感染症 03 妊娠・中絶 04 性被害・性的虐待 05 性同一性障害 06 摂食障害
07 睡眠障害 08 発達障害 09 うつ病・双極性障害
10 リストカット 11 不登校 12 いじめ 13 引きこもり
14 虐待 15 犯罪行為 16 やせ 17 肥満 18 貧血
19 喫煙 20 飲酒 21 薬物乱用 22 スマホ・ネット依存 23 その他 ()

	回答数	%
全体	5173	100.0
1 月経異常	359	6.9
2 性感染症	396	7.7
3 妊娠・中絶	542	10.5
4 性被害・性的虐待	284	5.5
5 性同一性障害	58	1.1
6 摂食障害	953	18.4
7 睡眠障害	777	15.0
8 発達障害	1921	37.1
9 うつ病・双極性障害	371	7.2
10 リストカット	66	1.3
11 不登校	2708	52.3
12 いじめ	1591	30.8
13 引きこもり	1077	20.8
14 虐待	400	7.7
15 犯罪行為	141	2.7
16 やせ	330	6.4
17 肥満	775	15.0
18 貧血	106	2.0
19 喫煙	221	4.3
20 飲酒	27	0.5
21 薬物乱用	182	3.5
22 スマホ・ネット依存	1813	35.0
23 その他	176	3.4
無回答	117	2.3



IV. 諸機関との連携について

※該当するものを選択し○をお付けください

問9 思春期の子どもたち或いはその保護者が受診され、他機関への紹介或いは他機関との連携が必要となったことはありますか。

01 あり → 問 10 へお進みください

02 なし → V. 問 11 へお進みください

	回答数	%
全体	5173	100.0
1 あり	3911	75.6
2 なし	1195	23.1
無回答	67	1.3

問 10 連携或いは紹介が必要な際に、どちらへご連絡されましたか。(複数回答可)

10-1 医療機関(診療科)

01 産婦人科 02 泌尿器科 03 内科 04 精神科
05 児童精神科 06 他院の小児科 07 その他

	回答数	%
全体	3911	100.0
1 産婦人科	1608	41.1
2 泌尿器科	201	5.1
3 内科	295	7.5
4 精神科	1619	41.4
5 児童精神科	2448	62.6
6 他院の小児科	847	21.7
7 その他	152	3.9
無回答	86	2.2

10-2 他の機関

01 学校 02 教育センター 03 子ども家庭支援センター
04 保健所・保健センター 05 児童相談所
06 警察 07 その他()

	回答数	%
全体	3911	100.0
1 学校	1205	30.8
2 教育センター	416	10.6
3 子ども家庭支援センター	797	20.4
4 保健所・保健センター	865	22.1
5 児童相談所	1516	38.8
6 警察	196	5.0
7 その他	102	2.6
無回答	1377	35.2

V. 思春期の性について

※該当するものを選択し○をお付けください

問 11 思春期の子どもたちは受胎調節の技術を正しく行っていると思いますか。

01 思う 02 思わない

	回答数	%
全体	5173	100.0
1 思う	179	3.5
2 思わない	4693	90.7
無回答	301	5.8

問 12 思春期の子どもたちにとって、性や妊娠に関する知識をどこから得るのが望ましいとお考えです

か。1~3つ選択してください。

01 保護者(同性) 02 保護者(異性) 03 学校の授業
04 テレビ 05 インターネット 06 雑誌などの書籍
07 医療機関 08 友人・知人 09 専門の相談所
10 その他()

	回答数	%
全体	5173	100.0
1 保護者(同性)	3086	59.7
2 保護者(異性)	601	11.6
3 学校の授業	4291	82.9
4 テレビ	149	2.9
5 インターネット	329	6.4
6 雑誌などの書籍	391	7.6
7 医療機関	1275	24.6
8 友人・知人	293	5.7
9 専門の相談所	906	17.5
10 その他	88	1.7
無回答	102	2.0

問 13 思春期の子どもたちにとって、特に適切と考えられる避妊法を選択してください。(複数回答可)

01 コンドーム 02 子宮内避妊器具 03 低用量ピル
04 基礎体温(リズム法) 05 その他()

	回答数	%
全体	5173	100.0
1 コンドーム	4672	90.3
2 子宮内避妊器具	176	3.4
3 低用量ピル	946	18.3
4 基礎体温(リズム法)	783	15.1
5 その他	190	3.7
無回答	207	4.0

VI. 学校保健について

※該当するものを選択し○をお付けください

問 14 校医をされていますか。

01 あり → 問 15. へお進みください

02 なし → 問 21 へお進みください

	回答数	%
全体	5173	100.0
1 あり	1534	29.7
2 なし	3598	69.6
無回答	41	0.8

問 15 どちらの学校で校医をされていますか。

01 小学校 02 中学校 03 高校

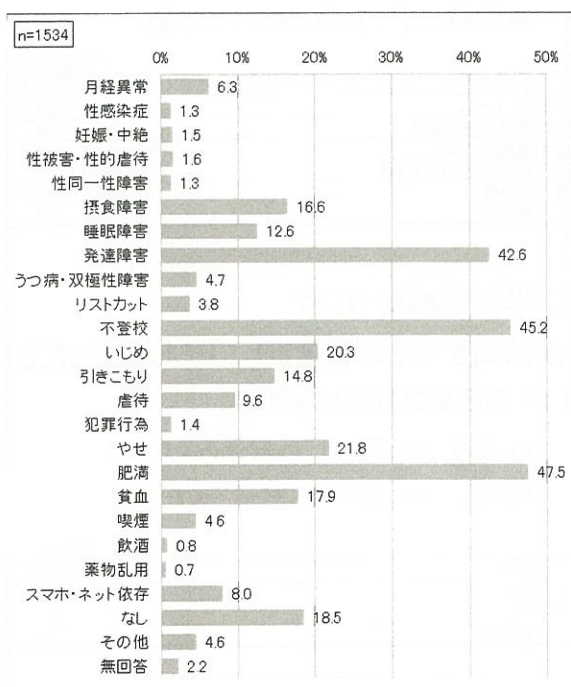
	回答数	%
全体	1534	100.0
1 小学校	1383	90.2
2 中学校	340	22.2
3 高校	136	8.9
無回答	23	1.5

問 16 校医として下記のようなことを相談されたことがありますか。(複数回答可)

01 月経異常 02 性感染症 03 妊娠・中絶 04 性被害・性的虐待
05 性同一性障害 06 摂食障害
07 睡眠障害 08 発達障害 09 うつ病・双極性障害
10 リストカット 11 不登校 12 いじめ 13 引きこもり
14 虐待 15 犯罪行為 16 やせ 17 肥満 18 貧血

19 喫煙 20 飲酒 21 薬物乱用 22 スマホ・ネット依存 23 なし 24 その他()

	回答数	%
全体	1534	100.0
1 月経異常	97	6.3
2 性感染症	20	1.3
3 妊娠・中絶	23	1.5
4 性被害・性的虐待	25	1.6
5 性同一性障害	20	1.3
6 摂食障害	254	16.6
7 睡眠障害	193	12.6
8 発達障害	653	42.6
9 うつ病・双極性障害	72	4.7
10 リストカット	58	3.8
11 不登校	694	45.2
12 いじめ	312	20.3
13 引きこもり	227	14.8
14 虐待	147	9.6
15 犯罪行為	21	1.4
16 やせ	334	21.8
17 肥満	729	47.5
18 貧血	274	17.9
19 喫煙	70	4.6
20 飲酒	12	0.8
21 薬物乱用	10	0.7
22 スマホ・ネット依存	123	8.0
23 なし	284	18.5
24 その他	70	4.6
無回答	34	2.2



問 17 校医として子どもを医療機関に紹介したことはありますか。

- 01 あり → 問 18. へお進みください
02 なし → 問 19. へお進みください

	回答数	%
全体	1534	100.0
1 あり	760	49.5
2 なし	757	49.3
無回答	17	1.1

問 18 どちらに紹介しましたか。(複数回答可)

- 01 小児科 02 産婦人科 03 泌尿器科 04 内科
05 精神科 06 児童精神科 07 その他()

	回答数	%
全体	760	100.0
1 小児科	491	64.6
2 産婦人科	83	10.9
3 泌尿器科	17	2.2
4 内科	32	4.2
5 精神科	120	15.8
6 児童精神科	303	39.9
7 その他	60	7.9
無回答	1	0.1

問 19 産業医をお持ちですか。

- 01 持っている 02 持っていない

	回答数	%
全体	1534	100.0
1 持っている	267	17.4
2 持っていない	1247	81.3
無回答	20	1.3

問 20 学校保健についてのご意見があればお書きください。()

VII. その他

※該当するものを選択し○をお付けください

問 21 先生がお考えになる思春期とは以下のどれになりますか

- 01 15歳まで 02 18歳まで 03 20歳まで
04 年齢に関係なく経済的自立まで
05 その他(具体的に:)

	回答数	%
全体	5173	100.0
1 15歳まで	159	3.1
2 18歳まで	2881	55.7
3 20歳まで	1219	23.6
4 年齢に関係なく経済的自立まで	652	12.6
5 その他	178	3.4
無回答	84	1.6

問 22 上記と考えた理由をお聞かせください。

問 23 小児科を主としている先生が、「子どもたちのかかりつけ医」として診察するのは、いつまでと考えますか。

- 01 15歳まで 02 18歳まで 03 20歳まで
04 年齢に関係なく経済的自立まで
05 その他(具体的に:)

	回答数	%
全体	5173	100.0
1 15歳まで	1129	21.8
2 18歳まで	1577	30.5
3 20歳まで	725	14.0
4 年齢に関係なく経済的自立まで	706	13.6
5 その他	901	17.4
無回答	135	2.6

問 24 上記と考えた理由をお聞かせください。()

思春期の健康に関するアンケート

保護者用

F 1 お子様の年齢と性別

- 第1子 () 歳 1. 男 2. 女
 第2子 () 歳 1. 男 2. 女
 第3子 () 歳 1. 男 2. 女
 第4子 () 歳 1. 男 2. 女
 第5子 () 歳 1. 男 2. 女

第1子

	回答数	%
全体	3602	100.0
1 0歳以上～5歳未満	1	0.0
2 5歳以上～10歳未満	11	0.3
3 10歳以上～15歳未満	967	26.8
4 15歳以上～20歳未満	1895	52.6
5 20歳以上～25歳未満	555	15.4
6 25歳以上～30歳未満	99	2.7
7 30歳以上～35歳未満	18	0.5
8 35歳以上～40歳未満	2	0.1
9 40歳以上	1	0.0
無回答	53	1.5
平均値		16.85
標準偏差		3.49
最小値		4.00
最大値		41.00

	回答数	%
全体	3602	100.0
1 男	1793	49.8
2 女	1747	48.5
無回答	62	1.7

第2子

	回答数	%
全体	3602	100.0
1 0歳以上～5歳未満	32	0.9
2 5歳以上～10歳未満	242	6.7
3 10歳以上～15歳未満	1499	41.6
4 15歳以上～20歳未満	1056	29.3
5 20歳以上～25歳未満	193	5.4
6 25歳以上～30歳未満	19	0.5
7 30歳以上～35歳未満	9	0.2
8 35歳以上	1	0.0
無回答	551	15.3
平均値		13.98
標準偏差		3.84
最小値		0.00
最大値		37.00

	回答数	%
全体	3602	100.0
1 男	1514	42.0
2 女	1528	42.4
無回答	560	15.5

第3子

	回答数	%
全体	3602	100.0
1 0歳以上～5歳未満	68	1.9
2 5歳以上～10歳未満	315	8.7
3 10歳以上～15歳未満	503	14.0
4 15歳以上～20歳未満	284	7.9
5 20歳以上～25歳未満	30	0.8
6 25歳以上～30歳未満	5	0.1
7 30歳以上	1	0.0
無回答	2396	66.5
平均値		11.58
標準偏差		4.47
最小値		0.00
最大値		30.00

	回答数	%
全体	3602	100.0
1 男	595	16.5
2 女	603	16.7
無回答	2404	66.7

第4子

	回答数	%
全体	3602	100.0
1 0歳以上～5歳未満	32	0.9
2 5歳以上～10歳未満	71	2.0
3 10歳以上～15歳未満	59	1.6
4 15歳以上～20歳未満	33	0.9
5 20歳以上	2	0.1
無回答	3405	94.5
平均値		9.52
標準偏差		4.83
最小値		0.00
最大値		20.00

	回答数	%
全体	3602	100.0
1 男	97	2.7
2 女	96	2.7
無回答	3409	94.6

第5子

	回答数	%
全体	3602	100.0
1 0歳以上～5歳未満	12	0.3
2 5歳以上～10歳未満	17	0.5
3 10歳以上～15歳未満	7	0.2
4 15歳以上	3	0.1
無回答	3563	98.9
平均値		6.90
標準偏差		4.58
最小値		0.00
最大値		17.00

	回答数	%
全体	3602	100.0
1 男	19	0.5
2 女	18	0.5
無回答	3565	99.0

F 2 ご回答いただく方のお子様との続柄と年齢

年齢 () 歳

- 続柄 1. 母親 2. 父親 3. 祖父母
 4. その他

	回答数	%
全体	3602	100.0
1 15歳未満	12	0.3
2 15歳以上～20歳未満	10	0.3
3 20歳以上～25歳未満	1	0.0
4 25歳以上～30歳未満	1	0.0
5 30歳以上～35歳未満	26	0.7
6 35歳以上～40歳未満	313	8.7
7 40歳以上～45歳未満	1096	30.4
8 45歳以上～50歳未満	1085	30.1
9 50歳以上～55歳未満	427	11.9
10 55歳以上～60歳未満	68	1.9
11 60歳以上～65歳未満	5	0.1
12 65歳以上～70歳未満	2	0.1
13 70歳以上～75歳未満	1	0.0
14 75歳以上～80歳未満	1	0.0
15 80歳以上～85歳未満	0	0.0
16 85歳以上～90歳未満	0	0.0
17 90歳以上～95歳未満	0	0.0
18 95歳以上	1	0.0
無回答	553	15.4
平均値		44.77
標準偏差		5.47
最小値		12.00
最大値		95.00

	回答数	%
全体	3602	100.0
1 母親	3326	92.3
2 父親	250	6.9
3 祖父母	5	0.1
4 その他	0	0.0
無回答	21	0.6

F 3 可能であれば、家族構成(お子様との続柄)をお答えください。

- 父親(パートナーを含む)
同居の有無 有 無
- 母親(パートナーを含む)
同居の有無 有 無
- その他の同居家族
()

	回答数	%
全体	3602	100.0
1 両親家庭	2887	80.1
2 父子家庭	9	0.2
3 母子家庭	167	4.6
無回答	539	15.0

以下の設定については、中高生のお子様についてお聞きします。

お子様との日頃の関わりについて

問1 あなたは、普段、お子様と話をしていますか。

- よく話をする
- 時々、話をする
- ほとんど話をしない
- まったく話をしない

	回答数	%
全体	3602	100.0
1 よく話をする	2882	80.0
2 時々、話をする	633	17.6
3 ほとんど話をしない	42	1.2
4 まったく話をしない	0	0.0
無回答	45	1.2

<心身の変化や健康について>

問2 身体が思春期に変化していくことについて、

お子様に話したことがありますか。

- あり
- なし

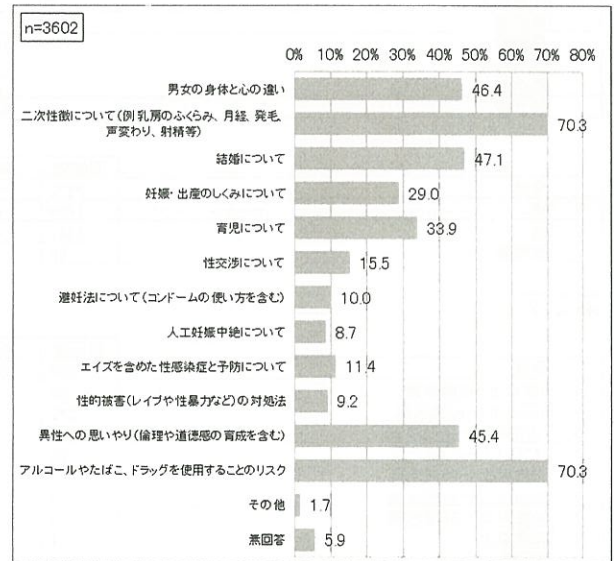
	回答数	%
全体	3602	100.0
1 あり	2617	72.7
2 なし	916	25.4
無回答	69	1.9

問3 以下の内容について、お子様と話し合ったことがあるものを全て選んでください。

- 男女の身体と心の違い
- 二次性徴について(例:乳房のふくらみ、月経、発毛、声変わり、射精等)
- 結婚について
- 妊娠・出産のしくみについて
- 育児について
- 性交渉について

- 避妊法について(コンドームの使い方を含む)
- 人工妊娠中絶について
- エイズを含めた性感染症と予防について
- 性的被害(レイプや性暴力など)の対処法
- 異性への思いやり(倫理や道德感の育成を含む)
- アルコールやたばこ、ドラッグを使用することのリスク
- その他()

	回答数	%
全体	3602	100.0
1 男女の身体と心の違い	1670	46.4
2 二次性徴について(例:乳房のふくらみ、月経、発毛、声変わり、射精等)	2534	70.3
3 結婚について	1696	47.1
4 妊娠・出産のしくみについて	1043	29.0
5 育児について	1221	33.9
6 性交渉について	558	15.5
7 避妊法について(コンドームの使い方を含む)	361	10.0
8 人工妊娠中絶について	315	8.7
9 エイズを含めた性感染症と予防について	412	11.4
10 性的被害(レイプや性暴力など)の対処法	332	9.2
11 異性への思いやり(倫理や道德感の育成を含む)	1636	45.4
12 アルコールやたばこ、ドラッグを使用することのリスク	2533	70.3
13 その他	61	1.7
無回答	211	5.9



問4-1 お子様の性の悩みについて、対応したことがありますか。

- あり → 問4-2へ
- なし → 問5へお進みください。

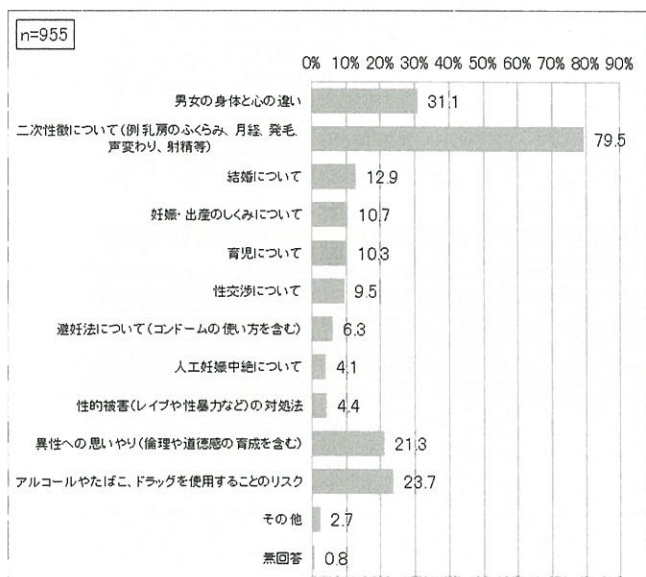
	回答数	%
全体	3602	100.0
1 あり	955	26.5
2 なし	2307	64.0
無回答	340	9.4

問4-2 お子様の性の悩みについて、対応した内容を全て選んでください。

- 男女の身体と心の違い
- 二次性徴について(例:乳房のふくらみ、月経、発毛、声変わり、射精等)
- 結婚について
- 妊娠・出産のしくみについて
- 育児について
- 性交渉について
- 避妊法について(コンドームの使い方を含む)
- 人工妊娠中絶について
- エイズを含めた性感染症と予防について
- 性的被害(レイプや性暴力など)の対処法
- 異性への思いやり(倫理や道德感の育成を含む)
- アルコールやたばこ、ドラッグを使用することのリスク
- その他

避妊法について（コンドームの使い方を含む） 8. 人工妊娠中絶について 9. 性的被害（レイプや性暴力など）の対処法 10. 異性への思いやり（倫理や道德感の育成を含む） 11. アルコールやたばこ、ドラッグを使用することのリスク 12. その他（ ）

	回答数	%
全体	955	100.0
1 男女の身体と心の違い	297	31.1
2 二次性徴について(例 乳房のふくらみ、月経、 発毛、声変わり、射精等)	759	79.5
3 結婚について	123	12.9
4 妊娠・出産のしぐみについて	102	10.7
5 育児について	98	10.3
6 性交渉について	91	9.5
7 避妊法について(コンドームの使い方を含む)	60	6.3
8 人工妊娠中絶について	39	4.1
9 性的被害(レイプや性暴力など)の対処法	42	4.4
10 異性への思いやり(倫理や道德感の育成を含む)	203	21.3
11 アルコールやたばこ、ドラッグを使用することの リスク	226	23.7
12 その他	26	2.7
無回答	8	0.8



問4-3 上記の問4-2についての対応に困り、どなたかに相談したことがありますか。

- あり → 問4-4へ
- なし → 問5へお進みください。

	回答数	%
全体	955	100.0
1 あり	373	39.1
2 なし	568	59.5
無回答	14	1.5

問4-4 どなたに相談しましたか。当てはまるものを全て選択してください。

- 家族
- 友人・知人
- 医療関係者
- 学校の先生
- 専門の相談所
- 職場の人
- その他（ ）

	回答数	%
全体	373	100.0
1 家族	247	66.2
2 友人・知人	157	42.1
3 医療関係者	106	28.4
4 学校の先生	46	12.3
5 専門の相談所	8	2.1
6 職場の人	35	9.4
7 その他	12	3.2
無回答	3	0.8

問5 お子様の性に対する関心や心配について、保護者として手助けをする準備ができていますか

- はい
- いいえ

	回答数	%
全体	3602	100.0
1 はい	2443	67.8
2 いいえ	701	19.5
無回答	458	12.7

相談経験や相談相手について

問6-1 二次性徴(初潮、精通等の思春期の悩み)について、お子様から相談されたことがありますか。

- あり
- なし → 問7へお進みください。

	回答数	%
全体	3602	100.0
1 あり	1142	31.7
2 なし	2102	58.4
無回答	358	9.9

問6-2 上記の問6-1についての対応に困り、どなたかに相談をしたことがありますか。

- あり
- なし

	回答数	%
全体	1142	100.0
1 あり	348	30.5
2 なし	782	68.5
無回答	12	1.1

問6-3 どなたに相談しましたか。当てはまるものを全て選択してください。

- 家族
- 友人・知人
- 医療関係者
- 学校の先生
- 専門の相談所
- 職場の人
- その他（ ）

	回答数	%
全体	348	100.0
1 家族	210	60.3
2 友人・知人	154	44.3
3 医療関係者	97	27.9
4 学校の先生	27	7.8
5 専門の相談所	6	1.7
6 職場の人	24	6.9
7 その他	7	2.0

問7-1 食生活や栄養状態、貧血、やせ指向などの心身両面の健康問題について、お子様か

ら相談されたことがありますか

1. あり

2. なし → 問8へお進みください。

	回答数	%
全体	3602	100.0
1 あり	1027	28.5
2 なし	2211	61.4
無回答	364	10.1

問7-2 上記の問7-1についての対応に困り、
どなたかに相談をしたことがありますか。

1. あり

2. なし

	回答数	%
全体	1027	100.0
1 あり	420	40.9
2 なし	599	58.3
無回答	8	0.8

問7-3 上記の問7-2で、「あり」と回答された方だけご回答ください。どなたに相談しましたか。
当てはまるものを全て選択してください。

1. 家族 2. 友人・知人 3. 医療関係者 4. 学校の先生 5. 専門の相談所 6. 職場の人 7. その他 ()

	回答数	%
全体	420	100.0
1 家族	230	54.8
2 友人・知人	136	32.4
3 医療関係者	260	61.9
4 学校の先生	55	13.1
5 専門の相談所	18	4.3
6 職場の人	34	8.1
7 その他	6	1.4
無回答	5	1.2

問8-1 異性との付き合い方について、お子様から相談されたことがありますか

1. あり

2. なし → 問9へお進みください。

	回答数	%
全体	3602	100.0
1 あり	513	14.2
2 なし	2744	76.2
無回答	345	9.6

問8-2 上記の問8-1についての対応に困り、
どなたかに相談をしたことがありますか。

1. あり

2. なし

	回答数	%
全体	513	100.0
1 あり	176	34.3
2 なし	329	64.1
無回答	8	1.6

問8-3 どなたに相談しましたか。当てはまるものを全て選択してください。

1. 家族 2. 友人・知人 3. 医療関係者 4. 学校の先生 5. 専門の相談所 6. 職場の人 7. その他 ()

	回答数	%
全体	176	100.0
1 家族	128	72.7
2 友人・知人	104	59.1
3 医療関係者	7	4.0
4 学校の先生	8	4.5
5 専門の相談所	3	1.7
6 職場の人	13	7.4
7 その他	2	1.1

問9-1 性交渉について、お子様から相談されたことはありますか

1. あり

2. なし → 問10へお進みください。

	回答数	%
全体	3602	100.0
1 あり	91	2.5
2 なし	3142	87.2
無回答	369	10.2

問9-2 上記の問9-1についての対応に困り、
どなたかに相談をしたことがありますか。

1. あり

2. なし

	回答数	%
全体	91	100.0
1 あり	30	33.0
2 なし	57	62.6
無回答	4	4.4

問9-3 上記の問9-2で、「あり」と回答された方だけご回答ください。

どなたに相談しましたか。当てはまるものを全て選択してください。

1. 家族 2. 友人・知人 3. 医療関係者 4. 学校の先生 5. 専門の相談所 6. 職場の人 7. その他 ()

	回答数	%
全体	30	100.0
1 家族	23	76.7
2 友人・知人	9	30.0
3 医療関係者	4	13.3
4 学校の先生	2	6.7
5 専門の相談所	1	3.3
6 職場の人	0	0.0
7 その他	2	6.7

問10 お子様にとって、思春期の相談先はどこが望ましいと思われますか (複数回答可)

1. 家族 2. 学校の先生 3. 医療機関 4. 市

町村の相談窓口 5. 友人・知人 6. その他
()

	回答数	%
全体	3602	100.0
1 家族	3156	87.6
2 学校の先生	1375	38.2
3 医療機関	1002	27.8
4 市町村の相談窓口	182	5.1
5 友人・知人	2326	64.6
6 その他	173	4.8
無回答	58	1.6

問11 お子様にとって性に関する基本的知識をどこから得るのが望ましいとお考えですか。当てはまるものをすべて選択してください。

1. 保護者(同性) 2. 保護者(異性) 3. 学校の授業
4. テレビ 5. インターネット 6. 雑誌などの書籍
7. 医療機関 8. 友人・知人 9. 専門の相談所
10. その他()

	回答数	%
全体	3602	100.0
1 保護者(同性)	2790	77.5
2 保護者(異性)	801	22.2
3 学校の授業	2893	80.3
4 テレビ	204	5.7
5 インターネット	190	5.3
6 雑誌などの書籍	422	11.7
7 医療機関	1036	28.8
8 友人・知人	758	21.0
9 専門の相談所	551	15.3
10 その他	52	1.4
無回答	66	1.8

お子様の知識について

問12 お子様は妊娠・分娩・育児の予備知識と家族計画の理念、受胎調節の技術を正しく知っていると思いますか

1. 思う 2. 思わない

	回答数	%
全体	3602	100.0
1 思う	804	22.3
2 思わない	2718	75.5
無回答	80	2.2

問13 お子様は年齢相応の性に関する基本的知識を知っていると思いますか。

1. よく知っている 2. ほどほどに知っている
3. あまり知らない 4. ほとんど知らない

	回答数	%
全体	3602	100.0
1 よく知っている	144	4.0
2 ほどほどに知っている	2340	65.0
3 あまり知らない	950	26.4
4 ほとんど知らない	99	2.7
無回答	69	1.9

学校以外の活動について

問14 お子様の社会的なあるいは娯楽的な活動

についてできる範囲で監視していますか?

1. はい 2. いいえ

	回答数	%
全体	3602	100.0
1 はい	3146	87.3
2 いいえ	214	5.9
無回答	242	6.7

問15-1 お子様の学校以外の活動について、何かしらのルールを設けていますか。

1. あり
2. なし → 問16へお進みください。

	回答数	%
全体	3602	100.0
1 あり	3083	85.6
2 なし	287	8.0
無回答	232	6.4

問15-2 ルールを設けている内容を全て選んでください。

1. スマホ・携帯電話の利用時間
2. スマホ・携帯電話の使用料金
3. お小遣い 4. 外出時の連絡・報告
5. 門限 6. アルバイト 7. その他()

	回答数	%
全体	3083	100.0
1 スマホ・携帯電話の利用時間	1150	37.3
2 スマホ・携帯電話の使用料金	915	29.7
3 お小遣い	2064	66.9
4 外出時の連絡・報告	2823	91.6
5 門限	1523	49.4
6 アルバイト	363	11.8
7 その他	102	3.3
無回答	4	0.1

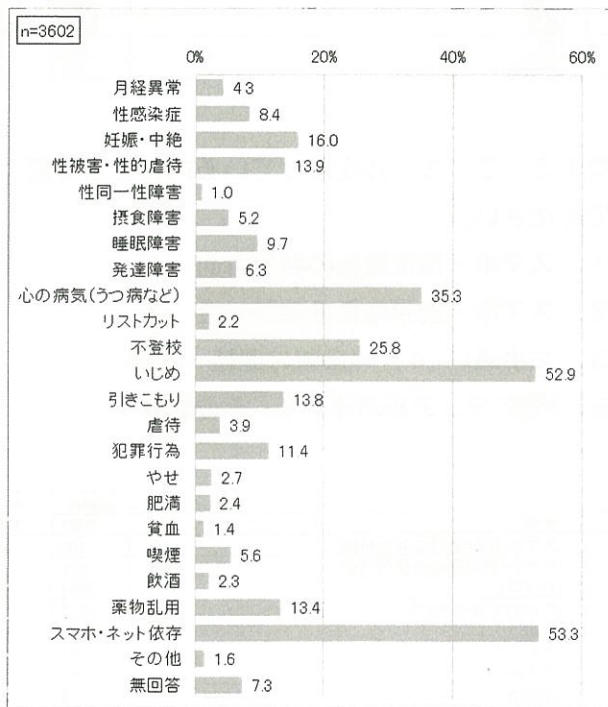
その他

問16 現在の思春期における子ども達の課題と思われるものは何ですか

上位3つに○をお付けください。

1. 月経異常 2. 性感染症 3. 妊娠・中絶 4. 性被害・性的虐待 5. 性同一性障害 6. 摂食障害 7. 睡眠障害 8. 発達障害 9. 心の病気(うつ病など)
10. リストカット 11. 不登校 12. いじめ 13. 引きこもり
14. 虐待 15. 犯罪行為 16. やせ 17. 肥満 18. 貧血
19. 喫煙 20. 飲酒 21. 薬物乱用 22. スマホ・ネット依存 23. その他()

	回答数	%
全体	3602	100.0
1 月経異常	156	4.3
2 性感染症	304	8.4
3 妊娠・中絶	575	16.0
4 性被害・性的虐待	502	13.9
5 性同一性障害	36	1.0
6 摂食障害	188	5.2
7 睡眠障害	349	9.7
8 発達障害	227	6.3
9 心の病気(うつ病など)	1272	35.3
10 リストカット	78	2.2
11 不登校	928	25.8
12 いじめ	1904	52.9
13 引きこもり	498	13.8
14 虐待	139	3.9
15 犯罪行為	411	11.4
16 やせ	96	2.7
17 肥満	87	2.4
18 貧血	51	1.4
19 喫煙	200	5.6
20 飲酒	82	2.3
21 薬物乱用	484	13.4
22 スマホ・ネット依存	1921	53.3
23 その他	58	1.6
無回答	264	7.3



問16-1 思春期とはいつ頃までと考えますか

1. 15歳まで 2. 18歳まで 3. 20歳まで
 4. 年齢に関係なく経済的自立まで 5. その他(具体的に:)

	回答数	%
全体	3602	100.0
1 15歳まで	281	7.8
2 18歳まで	2269	63.0
3 20歳まで	470	13.0
4 年齢に関係なく経済的自立まで	273	7.6
5 その他	79	2.2
無回答	230	6.4

問16-2 上記と考えた理由をお聞かせください。()

問17-1 自分のお子様をいつまで小児科に連れていきますか。

1. 15歳まで 2. 18歳まで 3. 20歳まで

4. 年齢に関係なく経済的自立まで 5. その他(具体的に:)

	回答数	%
全体	3602	100.0
1 15歳まで	1899	52.7
2 18歳まで	834	23.2
3 20歳まで	128	3.6
4 年齢に関係なく経済的自立まで	140	3.9
5 その他	363	10.1
無回答	238	6.6

問17-2 上記と考えた理由をお聞かせください。()

問18 日本小児科学会は2006年に「小児科医は子ども達が成人になるまで見守ります」のスローガンの下、中学校卒業後も小児科医が子ども達のかかりつけ医となることを宣言しましたが、このことを知っていましたか。

1. はい 2. いいえ

	回答数	%
全体	3602	100.0
1 はい	323	9.0
2 いいえ	3034	84.2
無回答	245	6.8

D. 考察

母性保健向上のためには、思春期からの一貫した健康診査が必要であるが、我が国では、思春期における保健および健康診査は、学校保健の中に組み込まれているため、思春期の個別的課題となるメンタル課題や、性関連の課題には対応しにくい側面がある。また、身体面や生殖機能などの生物学的成熟と、大人として社会的役割をもつ社会的成熟の時期が同時でないため、その結果、喫煙、飲酒、薬物、暴力、食行動異常、性的逸脱などの危険行動を生み出していると言われている。青少年の死亡原因の7割が自殺、不慮の事故などであるが、それらの多くが政策的レベルまたは小児科レベルでの加入によって予防可能である事を米国前思春期医学会会長のMary-Ann Shaferは強調している(第9回日本小児科学会 思春期医学講座特別講演 平成26年5月18日)。

思春期医療と小児科学会員

医師アンケートの回答者性別は男性医師、女性医師のおのおの60.7%、38.6%であった。内閣府男女共同参画局の報告によると小児科における女性医師

の割合は33%であり、本アンケート調査が小児科医の意見を反映しているものと推測される。小児科学会員の82.9%が、思春期（概ね2次性徴発現から20歳まで）の子どもたちの診療かいはその保護者からの相談を受ける機会があり、来談経緯は急性疾患の受診時から予防接種、慢性疾患の受診と様々であった。相談を受ける機会の勤務先別比較では、診療所が86.7%と最も高かった（市中病院83.6%、大学病院80.8%）*。尚、回答者年齢と勤務先の関係では、診療所は60歳以上の医師が62.8%と最も多く、市中病院は40歳未満が54.6%と最も多く、大学病院は、40歳未満が27.1%と最も多かった*。思春期医療への関心の高さをうかがえる一方、日本小児科学会が2006年に提唱したスローガン「小児科医は子どもたちが成人になるまで見守ります」を知っている小児科学会員は60.9%のみで、40歳未満の医師では45.6%と低率であった*。日本小児科学会では2007年から毎年、思春期医学臨床講習会を開催し、会員に対して思春期医療に関する教育セミナーを実施している。

小児医療現場における思春期の相談内容

相談内容については4分野に大別した。1) 母性機能の発達に関係する疾病、性の悩み（月経異常、性感染症、妊娠・中絶、性被害・性的虐待、性同一性障害）、2) 心身の発達等（摂食障害、睡眠障害、発達障害、うつ病・双極性障害、リストカット）、3) 学校生活、生活環境等（不登校、いじめ、引きこもり、虐待、犯罪行為）、4) 生活習慣、栄養食生活等、貧血、喫煙飲、薬物依存、スマホネット依存）。相談を受けたことのある比率の高い順に、①不登校（80.7%）、②肥満（58.1%）、③発達障害（53.8%）、④月経異常（48%）の順であった。睡眠障害（43.1%）、摂食障害（42.4%）も高い比率であった。月経異常については、男性医師においては37.6%であったが女性医師では相談を受けた経験は、63.7%であった*。また、近年相談が増えているものも、①不登校（67.1%）、②発達障害（43.2%）、③肥満（39.9%）であった。性感染症、妊娠・中絶等の相談経験の有無は4-6%と低いが、日本家族計画協会の思春期電話相談では、男性、女性の相談件数でもっとも多かったものは、おのおの、「包茎」、「緊急避妊」であった。また本調査で、「妊娠・中絶」

に関する相談経験の有無は、大学病院勤務者で12.1%に対して、診療所勤務者では3.7%と低く*、個人を対象とした思春期の相談にはプライバシーに十分配慮する必要があると思われる。

医師が対応可能な疾患

医師が初期対応も含め対応可能な疾患と、相談を受けたことのある疾患の比率で若干の相違を認めた。対応可能な疾患としての上位は肥満（48.7%）、貧血（48.3%）など生活習慣、栄養食生活課題であった。その次に発達障害（44.3%）、不登校（41.5%）が続いた。発達障害については、53.8%の会員が相談を受けた経験があり、44.3%の会員が対応可能であったが、一方、不登校は、80.7%の会員が相談経験あるにも関わらず対応可能は、41.5%と半数であった。発達障害については各種関連学会、セミナー等でしばしば医療機関における対応の仕方など会員の間で研鑽が積み重ねられているが、不登校についてはその心理社会的背景や個人の気質の違いから対応には経験が必要とされると思われる。不登校の対応に関しては、回答者年齢別では、60歳以上（45.5%）、41歳～60歳未満（42.6%）、40歳未満（35.6%）で、勤務先別では、診療所（44.9%）、市中病院（42.5%）、大学病院（34.3%）で、また校医である方（47.8%）、ない方（38.7%）が対応可能と若干の違いがあった*。不登校対策としてスクールソーシャルワーカーの活用と同時に、診療所勤務の小児科プライマリ・ケア医の初期対応もさらに求められるものと思われる。日本小児心身医学会が発行している不登校の診療ガイドラインなどが初期対応の参考になる。一方で相談を受けたことがある疾患の比率以上に、対応可能であると答えた比率の高い疾患や行動も散見された。性感染症では相談を受けたことのある医師は、4.2%にすぎなかったが、対応可能な医師は12.7%と高率であった。その他、虐待が相談経験9.4%に対して対応可能15.6%、喫煙が、相談経験5.8%に対して対応可能9.8%、飲酒が相談経験2.0%に対して対応可能5.3%であった。虐待防止を含めた母子保健の強化、思春期生徒の健全な生活習慣の指導に、小児科プライマリ・ケア医の活躍が期待される。

思春期の診療に必要な知識・連携

思春期の子どもたちを対象とした診療をおこなううえで最も必要な知識は、会員の63.8%が、身体疾患と回答している。思春期は二次性徴も含め身体発育が急速に成長する時期であり、それに付随する月経異常、肥満、やせ、貧血など身体面への配慮が重要である。また、最も相談率が高い不登校に関しても、児童思春期生徒は、心の悩みを頭痛、腹痛、めまいなどの身体症状で表出することが多いため、初期対応としては器質的疾患の除外など身体疾患の知識が重要になる。不登校の臨床では、現症の身体症状に医療者が真摯に向き合うことで、精神症状や不適応行動が緩和、軽快することもしばしば経験されるため、一層身体疾患の知識を有していることは重要と思われる。他の医療機関との連携（紹介）では、多くの回答者が精神科（62%）や産婦人科（41.1%）など、おのおのの専門領域との連携機関をもっていた。学年が上がるごとに連携（紹介）の率はあがり、小学校、中学校、高校の順で、泌尿器科（2.1%、4.1%、5.8%）、産婦人科（10.1%、15.8%、23.3%）、精神科（14.4%、24.0%、43.0%）であった*。思春期の問題が身体症状のみに限定されることはないため、思春期医療に携わる医療者は常に他の専門分野の医療者と連携をもっておく必要がある。行政機関との連携の有無は児童相談所が38.8%と最も多く、虐待関連の連携と思われる。一方で相談比率の高い不登校、発達障害などは学校での適応が課題となるが、学校との連携経験は30.8%と必ずしも高くなく、今後、スクールソーシャルワーカーと医療・医療者との連携強化が課題になると思われる。

思春期医療と学校医

思春期の健康診査が学校保健の中に組み込まれているため、学校医の役割は重要と思われる。今回のアンケート調査で学校医をしている医師は、29.7%で、その内訳は、小学校1,396名、中学校346名、高校139名であった*。校医である場合と校医でない場合に、対応可能な疾患の率に若干の差を認めた。校医である場合の方が、対応可能な率が高いものが、うつ病・双極障害（9.1% vs.6.9%）、不登校（47.8% vs.38.7%）、いじめ（23.8% vs.17.7%）、ひきこもり（18.0% vs.14.6%）、肥満（56.9% vs.45.2%）、喫煙（12.5% vs.8.6%）、スマホネット依存（9.8%

vs.6.9%）であった*。一方で校医であって対応可能な率が低いものに、性感染症（9.4% vs.14.1%）、妊娠・中絶（5.0% vs.7.4%）、性被害・性的虐待（4.5% vs.6.1%）など性関連の課題を認めた*。これは診断のために特別な手法を必要とすること、プライベシーへの配慮が一層必要なためと思われるが、思春期児童生徒にとっては性関連の課題は重要であり、幅広く相談窓口を設ける工夫が必要である。全ての身体疾患、精神疾患、生活習慣課題において、小学校、中学校、高校と学年が上がるにつれて、相談率は上がっていた*。不登校、ひきこもりについてはその上昇率は微増（2-5%）であったが、精神関連の課題は5-10%の上昇を認めた*。学校医の役割は文部科学省管轄の学校保険安全法で取り決められているため、今後、思春期医療の向上に文部科学省との連携も必要と考えられる。また、学校医においても思春期医療への参画を促すためにセミナー参加、マニュアルの作成や、一定の資格診査も検討すべき課題と思われた。

保護者と思春期の子どもたち

保護者アンケートの回答者は母親が92.3%で、父親が6.9%であった。母子家庭は4.6%で総務省の国勢調査結果（1.6%）に比べ、若干高率であった。子どもが男の子だけ、女の子だけ、男の子と女の子の両方の家庭は、おのおの23.3%、24.4%、51.5%であった*。家庭内に20歳以上のいる家庭といない家庭の比率は、18.8%、80.8%で、1人っ子の家庭と複数の子どもがいる家庭の比率は、14.6%、85.0%であった*。普段、子どもと話をする家庭は80.0%（男の子だけの家庭75.5%、女の子だけの家庭85.8%）、1人であるかないか、20歳以上の同胞がいるかないか、父子母子家庭での差などは認められなかった*。身体が思春期に変化していくことについて子どもと話す家庭は、72.7%（男の子だけの家庭62.4%、女の子だけの家庭81.3%）であった。保護者アンケートに回答した家庭の家族構成が、標準的な家族構成の抽出になっているか比較をおこなっていないが、多くの家庭が子どもと話し合う機会があることが推測された。

思春期の子どもたちの保護者への相談内容

両親家庭と母子家庭で、各項目の相談比率の差は

認められなかった*。70.3%の保護者が子どもたちと二次性徴について話し合う機会があり、同じく70.3%の保護者がアルコール、たばこ、薬物について話し合う機会をもっていた。男女の身体と心の違い、結婚、異性への思いやりなどは約半数の家庭で子どもと相談する機会があり、妊娠・出産や育児については3割前後の家庭で相談の機会が認められた。一方で性交渉、避妊、中絶、性感染、性的被害などの性関連事項について相談を受ける機会は9.2%~15.5%と低く、実際に対応した率は4~10%であった。さらに性関連事項の相談を受ける機会は、男の子だけの家庭は女の子だけの家庭に比べ半数程度であった*。性関連事項についての相談、対応が少ないことでニーズが少ないとは判断できず、無症候性感染のリスク、未治療による不妊症等のリスク、性的被害に合わないための行動など、子どもたちと話し合う機会が必要である。実際にアルコール、たばこ、薬物について対応した家庭は23.7%であるが、相談したことのある家庭は70.3%と、思春期の危険行動の回避のために日頃より話し合っておくことは重要である。学校性教育のあり方について学習指導要項は主に、思春期の身体・生殖器の変化や異性への思いやりなどの道徳面を取り入れており、受孕調節や感染対策に関する内容は決して十分でないと思われる。自治体独自でマニュアルを作り、性感染などに踏み込んだものもあるが、学校現場では校務内容が多く十分な時間を性教育に確保できないこと、行き過ぎた性教育を心配する保護者の声などもある。子どもの性に対する関心や心配について、保護者として手助けをする準備ができていますかという設問に対して「はい」と答えた家庭は67.8%で、不安を抱えている家庭も少なくないと思われる。治療ではなく予防的な視点で、小児科医が関わることのできる思春期の性関連課題への対策を検討することも必要と考えられた。

思春期の子どもたちの相談先

思春期の子どもたちの相談先について、子ども自身が単独で相談するのか、親とともに相談するのかなど状況によって異なるが、多くの保護者が家庭(87.6%)または友人知人(64.6%)をあげていた。医療機関にその役割をもとめる保護者も27.8%と一定数の希望があり、その頻度は母親の年齢が上がる

につれて高率になっていた(母親の年齢が30歳から35歳未満で19.2%、55歳から60歳未満で45.6%)。また性に関する基本的知識をどこから得るのが望ましいかとい設問に対しても28.8%の保護者が医療機関を指摘しており、今後、医療機関における思春期相談、性知識の教育の可能性について検討すべき課題と思われる。ただし、プライバシーに配慮した診察環境の検討も重要な課題である。

現在の思春期の子どもたちの課題について

現在の思春期の子どもたちの課題について、医師の視点と保護者の視点でいくつかの相違が認められた。医師側にとって、しばしば発達障害児童への対応、アドバイスの相談を受けることがあり、併存症も伴いやすい思春期は重要と位置づけるが(医師の37.1%が課題と回答)、保護者側のその率は6.3%と低い値であった。これはちょうど発達障害児の有病率に近い値でもあった。むしろ様々な精神疾患、または不登校など思春期まで長期化することが大きな課題と考えている(35.3%)。同様に、医師側は不登校を最大の課題(52.4%)と捉えているが、保護者側は不登校(25.8%)より、現実的ないじめを課題と考えている(52.9%)。保護者が考える思春期の最大の課題はスマホネット依存(53.3%)で、医師アンケートにおいて3番目の課題(35.0%)としてあげられていた。スマホ・携帯電話等の利用時間、使用料金のルールを設けている家庭は3割前後で、依存による睡眠障害、コミュニケーションの低下、引きこもりなど危惧される。

受孕調節について

「医師の90%が思春期の子どもたちが受孕調節を正しく行っていると思っていない」、「保護者の75%が思春期の子どもたちが受孕調節に関して正しい知識を持っていないと思っている」。この結果については様々な解釈ができるが、いわゆる「性教育」とされているものが思春期教育として機能していない、あるいは内容や手段の提供に関して充足していない可能性についても検証する必要がある。日本では子どもの貧困率が上昇しているが、貧困層においては若年妊娠の率が高く、貧困の連鎖が起こることが知られている。受孕調整について学校性教育でどの程度含めるか、また子どもたちの理解度がどの

程度であるか検討していくことが今後、必要と思われる。

思春期とかかりつけ医

医師、保護者が考える思春期の定義については、両者ともおよそ4分の3の回答者が18歳または20歳と考え、また年齢に関係なく経済的自立までと考える回答者もおおの12.6%, 7.6%であった。一般に思春期のはじまりは二次性徴の開始と考えられているが終わりについては諸説があるものと思われる。生物学的な変容が収束した時期と捉えるならば、男女とも16~18歳が思春期の終わりとして解釈されるが、大人への移行期と捉え心理発達の成熟と考えるならば、24~25歳までと考える場合もある。思春期が身体面・生殖機能の急激な変化、精神面での不安定さ、危険行動に遭遇する機会の増加、など様々な課題を有する時期で、どの診療科が思春期のヘルスプロモーションを担っていくか検討することは重要である。小児科医師の6割(58.1%)が、子どものかかりつけ医として、受診年齢の上限を18歳から年齢に関係なく経済的自立までと考えていた。多くの医師が思春期医療に関心を示している一方で、21%の医師はかかりつけ医としての上限を15歳までとしている。この理由として、小児入院医療管理料が15歳未満にしか適応されないこともひとつの理由として考えられる。保護者の半数(52.7%)は15歳までが小児科受診と考えているが、30.7%の保護者は、受診年齢の上限を18歳から年齢に関係なく経済的自立までの受診を希望していた。身体面のみでなく、思春期に課題となりうる心理面の相談など、必要時に幼少期、学童期から子どもを知っているかかりつけ医に求めているからと思われる。

本調査の限界

保護者用アンケートにおいていくつかの限界がある。保護者の年収が不明であるため、経済格差が思春期の課題においてどのような影響を及ぼしているのか不明であること。子どもの貧困率が増えている中、思春期の課題も変容してきている可能性があり、縦断的な調査も今後必要である。またアンケート回答者の居住地がわからないため、思春期の課題に地域格差があるか不明であることなどがあげられる。

E. 結論

今回の調査から、小児科医、保護者、いずれにおいても思春期の課題、思春期医療に強い関心があることが理解された。思春期は小児期から成人への移行期であるが、身体機能・精神機能とも大きく変化する時期で心理発達上の危機的課題に遭遇する。我が国では思春期医療の担い手がいらないばかりか、医学教育、初期後期研修医教育制度の中に思春期医学に関するカリキュラムが組み込まれていない。思春期の課題が、小児科、内科、産婦人科・泌尿器科、そして精神科など、単科で解決されることは少ない。次世代を担う若手の医学教育制度、臨床研修制度の中に思春期医学の概念を啓発していくことが喫緊の課題と思われる。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究成果

思春期医療の現状と今後の展望を考える —平成26年度厚生労働省児童福祉問題調査研究事業報告— 市民公開セミナー 小児科学会会員および保護者へのアンケート調査